



2022読書週間

10/27(木)~11/9(水)

「読書週間」は、戦後に「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」という意味で始まりました。みなさんに読書のすばらしさを知ってもらおうきっかけになればと願います。

今年のキャッチフレーズのように「この本に出会えてよかった!」「これは自分の本だ!」と思えるような1冊に、中学生の間に会えますように。

「この一冊に、 ありがとう」



裏に
一覧を掲載
してます

図書委員企画①

先生おすすめの本

毎年恒例の「先生おすすめの本」、中央階段おどば場に掲示します。13年目の今年はさらに、図書委員が担任の先生のおすすめの本を放送で紹介します。お楽しみに!

図書委員のおすすめ本を、Instagram風に紹介する「ホンスタグラム」。写真の代わりに絵と文章で、おすすめの本を表現しています! 図書館前廊下に掲示しているので、ぜひ見てくださいね。

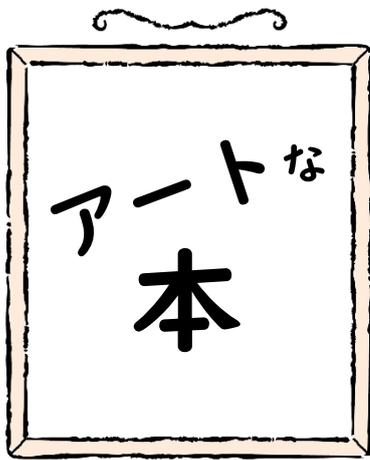
図書委員企画②

ホンスタグラム

図書委員企画③

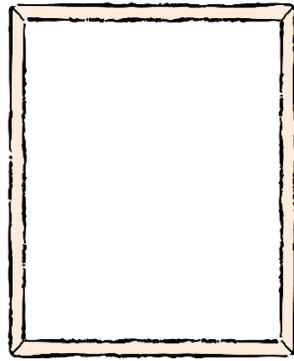
本の木

おすすめの本を葉っぱに書いて「本の木」を茂らせよう! 「本の木」の葉っぱ作りは図書委員以外もOKです。書いてくれる人は宮野に声をかけてくださいね。

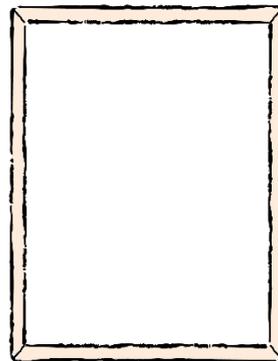


OZU2022

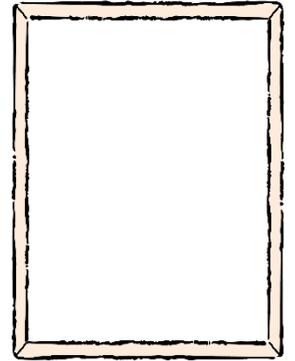
芸術の秋ですね。11月4日(金)には、「スクールミュージアム」として、大津中学校に美術館がやってきます！県立美術館の貴重な収蔵作品、浜田知明とマルク・シャガールの作品が展示されます。この機会に、画集や芸術に関する本を開いてみてはいかがでしょうか。



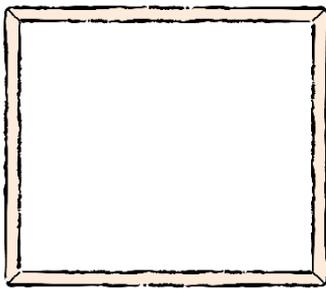
『はじめてであう絵画の本
シャガール』
(アーネスト・ラボフ、
あすなる書房)



『原寸美術館』
(結城昌子、小学館)

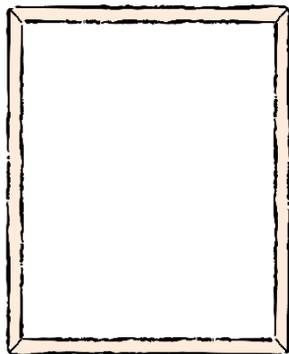


『教科書に出てくる日本の
画家』シリーズ
(糸井邦夫、汐文社)

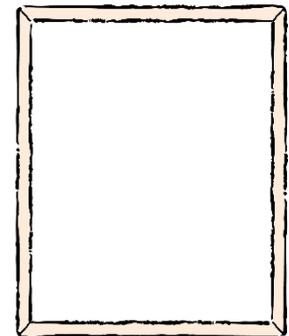


『名画で遊ぶあそびじゅつ！—世界の楽しい美術めぐり』

エリザベート・ド・ランビリー (長崎出版)

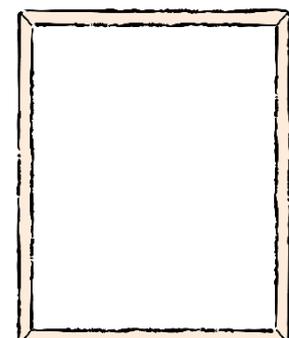


名画の細かい部分「ディテール」に注目し、それを探すぐイズに挑戦。楽しみながら名画をじっくり観察し、いろんな発見をしてみよう！



『13歳からのアート思考』末永幸歩 (ダイヤモンド社)

有名なモネの《睡蓮》の絵の中に、カエルを発見できますか？表面を見るだけ、作品の解説を読むだけ、ではなく「自分なりの見方」で作品を見ることで「自分なりの答え」を見つけることができます。そしてそれはアート鑑賞だけでなく、学問も人生も同じ。「自分なりのもの見方・考え方」を持てる人こそが結果を出して幸せになれる！そのためにも「アート思考」を身に付けよう。



『ジヴェルニーの食卓』原田マハ (集英社)

モネ、マティス、ドガ、セザンヌ。時に異端視されながらも新しい時代を切り拓いた美の巨匠たちの4つの物語。語り手は彼らの人生と関わった女性たち。助手、ライバル、画材屋の娘、義理の娘…彼女たちが目にした、美と愛を求める闘いとは。

『写真みたいな絵が描ける色鉛筆画』三上詩絵 (日本文芸社)

ペットのしぐさ、庭の花、窓からの景色。普段見過ごしてしまいそうなものでも、絵に描いたとたん思いもよらないほど素敵なものになるのが絵の魅力。絵を描いたことがない人でも紙と色鉛筆だけで簡単に始められる色鉛筆画。自分の手で描き飾る喜びをぜひ。